

・内田九州男（大阪城天守閣）、相蘇一弘（大阪市立博物館）各氏の教示を得た。また、大阪における魚市場の沿革については大阪市水産物卸組合理事酒井亮介氏の教示を得た。

## 9 関係文献

森毅「『船場』道修町の発掘調査」（『葦火』五号 勅大阪市文化財協会 一九八六年）

（中尾芳治）

## 大阪・安堂遺跡

所在地 大阪府柏原市安堂町

調査期間 一九八五年（昭60）一二月～一九八六年二月

発掘機関 柏原市教育委員会

調査担当者 竹下 賢・桑野一幸

遺跡の種類 集落跡

遺跡の年代 弥生時代～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

安堂遺跡は柏原市のはば中央部、大和川と南河内地域を北流する石川との合流点に臨み、生駒山系西麓南端の狭隘な谷口扇状地上に

向日市教育委員会発行  
コロタイプ図版 B4版 51枚  
解説 A5版三二〇頁  
一九八四年刊  
頒価 図録・解説共 一五〇〇〇円  
解説のみ 四五〇〇円  
送料 不要  
△申込先 真陽社

## 『長岡京木簡一』



（大阪東南部）

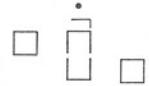
立地する。標高約一八mを測り、大和川水面との間に大きな比高差はない。今回の調査はマンション建設に先立ち実施したもので、発掘調査面積は約六二〇m<sup>2</sup>である。

調査では弥生時代の溝、土壙、奈良時代の掘立柱建

物二棟、溝、土壙、柵、平安時代の井戸、土壙が検出された。ここに紹介する六点の木簡は、奈良時代の土壙から出土したものである。この土壙は長さ一・四m、幅一・五m、深さ一・五mの楕円形を呈し、南北四間、東西二間の掘立柱建物と、その西約一四mの位置に南北に延びる柵との間の空閑地に掘り込まれている。掘立柱建物はほぼ同位置に同規模のものが重複しており、自然腐朽を要因とした建て替えと判断している。木簡の出土した土壙は、多量の槍鉋、手斧等による木材の削片によつて埋没しており、こうした建て替え等によつて不要となつた建築材の廃棄壙としての役割をもつたものと考えられる。この土壙からは、木簡の他に箋・杓子・箸・曲物の蓋・物差・人形等の木製品、桃・ウリ・クルミ・栗・ヒヨウタン等の種実、土師器の杯・椀、須恵器の蓋杯等の土器片が出土している。土師器の杯は平城宮土器Ⅲに比定できるもので、土壙の年代は八世紀中葉に推定される。この年代は、出土した木簡の一つに記された天平一八年(七四六)とも良く符合するものである。

- 安堂遺跡の位置する地域は、『続日本紀』天平勝宝八歳二月条に「戊申、行幸難波。是日、至河内国、御智識寺南行宮。己酉、天皇幸智識。山下、大里、三宅、家原、鳥坂等六寺礼仏。」とみえるように、この時、孝謙天皇が巡幸した寺院群が建立されていた。調査地はこのうち河内国智識寺の南西二〇〇mにあたり、この智識寺の南方の一部には智識寺南行宮も営まれている。今回出土した木簡の多くは、若狭国、近江国などの地方から平城宮に送られた税の荷札である。そうした木簡が調査地で出土した理由としては、地方→平城宮→安堂遺跡という荷札そのものの移動を考慮しなければならず、この六点の木簡の歴史的意義を探る上で、『続日本紀』に記載された智識寺、智識寺南行宮との関係を十分に検討する必要がある。
- 8 木簡の积文・内容
- (1) 「(穿孔) 九月一日進上車<sub>二</sub>一両 載稻六十束」  
「(穿孔) 建麻呂持稻十束 合七十束 付飯万石」  
263×18×4 0111\*
- (2) 「▽若狭国遠敷郡野里相臣山守<sub>二</sub>」  
天平十八年九月 調塙三斗
- (3) 「▽ 天平十八年九月 <sub>▽</sub> 142×31×4 031\*
- (4) 「春日部<sub>二</sub>男戸」  
「春<sub>カ</sub> 酒<sub>カ</sub> 戸」
- (5) 「益田郷戸主錦<sub>二</sub>部」  
121×20×4 051\*
- 200×16×4 051

(6) •「七月□□〔七〕



(39)×38×5 81

(2)の「若狭国遠敷郡」は現在の福井県小浜市周辺にあたる。(3)(4)の「近江国浅井郡」は琵琶湖の北東で、現在の滋賀県東浅井郡周辺である。(3)の上端は表面から小刀で切り込んだ後に折っている。又、下半の「郡田根郷」部分の両側縁は、文字の一部が削り取られており、下端は二次的に尖らせたものと思われる。(4)の上端も切り込みを入れた後に折られている。(5)の「益田郷」は所属する国郡名を明確にすることができないものの、(3)(4)に示された近江国浅井郡の中にも益田郷が存在することから、これも同国のものと思われる。

## 9 関係文献

柏原市教育委員会『安堂遺跡』(一九八七年)

(桑野一幸)

# 木簡研究第三号

卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭脩

## 一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 碑田遺跡——下ツ道—— 長岡京跡 大藏司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

## 一九七七年以前出土の木簡(三)

平城宮跡(第二一次・第二二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

## 中国における簡牘研究の位相

## 庸米付札について

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心にして——

狩野久原秀三郎  
志田原重人

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円

彙報

